

2021年12月

日頃より海外協力隊をご支援いただいている皆様

独立行政法人国際協力機構
青年海外協力隊事務局
事務局長 小林広幸

拝啓 今年も残り僅かとなっておりますが、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年から年賀状に代えて、略儀ではございますが皆様へのご挨拶を、青年海外協力隊事務局を代表しましてメールをもってお届けさせていただいております。まず何よりも、本年につきましても、海外協力隊員や合格者等の方々に対しまして皆様から温かなご支援を賜りましたこと、心から御礼申し上げます。

2020年3月に新型コロナウイルスの感染拡大により隊員の一斉一時帰国が実施され、同年11月に再派遣第一号としてベトナム国に隊員が赴任したことは既にご報告させていただきましたが、その後も、安全と健康の確保を最優先としつつ派遣を継続して参りました。その結果、これまでの累積派遣人数は約300名となり、平常時と比較すれば、依然、限られた人数ではありますが、少しずつ前進を続けております。約300名の内の約200名は昨年度に国内で待機いただいた隊員の派遣です。更に、残りの約100名は、合格者として昨年度に派遣前訓練をお待ちいただいた方々が、漸く本年度から再開した訓練に参加し、派遣されたものです。しかし、依然、国内においては特別登録をされた方を含め非常に多くの方々に訓練や派遣をお待ちいただいております。引き続き、一日でも早く、一人でも多くの方を現地にお送りできるよう最善を尽くして参ります。

前述の今年度再開した派遣前訓練は、国内での感染が続くなか、感染防止に努めながらの実施となりました。訓練期間も通常より短い約60日間に設定し、更に最初の2週間は健康観察も兼ねたホテルでのリモート訓練を行いました。訓練所内でもアクリル板の設置や除菌を徹底し、結果的にこれまでに1件の感染も発生せずに実施できております。むしろ、この機に導入したオンライン訓練やオンデマンド教材の活用などは、今後の訓練の在り方に新しい可能性を示しました。既に4回の訓練が実施され、年度内には計5回の実施を通して約250名の候補者に参加いただく予定です。派遣可能な国が限られている中、訓練参加人数も限られており、4次隊では駒ヶ根訓練所において23名が訓練中です。たとえば人数は少なくとも候補者は意欲高く訓練に取り組んでいます。

また、本年度は春募集も実施いたしました。感染が続く中での募集にどれほどの方に関心をお持ちいただけるのか不安もありましたが、結果的にほぼ例年通りの1300名を超える応募をいただきました。昨年度内に一度も募集を実施できなかったことが、その背景にはあると思いますが、何よりも各地において皆様のご支援を頂く中で、このように多くの方々に関心をお持ちいただけたことは我々にとっても大きな希望となりました。当初は秋募集も実施する計画でしたが、想定以上に派遣可能な人数が限られてきた中で、秋の一般公募は延期し、既に派遣や訓練をお待ち頂いている方々に限定した募集を実施しております。

赴任を果たした隊員達は、パンデミック下の現場で、今できる事に積極的に取り組んでいます。現地の音楽や踊りを取り入れて感染防止の啓発動画を製作・発信した隊員がいます。日本での待機中に得た経験を活かし、日本とオンラインで繋いで活動をした隊員もいます。一部には、現地の感染状況により一時的に配属先での通常の活動が難しくなった隊員もいますが、決して歩みを止めることなく、少しでも任地で役に立とうと様々に工夫しながら活動を継続しています。この厳しい状況下で、隊員達の逞しさはその輝きを増しているように思えます。

本事業において、今、最も優先されるべきは、感染予防を徹底しつつ、一日も早く、一人でも多くの隊員を送り届ける事、そして、それを積み重ねる事で事業の平常化を果たすことです。同時に、昨年もお伝えした、待機中の隊員達等による日本国内での活動の様子も踏まえ、隊員や隊員経験者の方々の国内での活躍を応援することにも注力します。この事業と地域の方々との関りを深めたいと思います。来年1月からは、派遣前の候補生が訓練の一環として各地で地方創生活動等に携わることで、隊員活動に向けた実践的な能力を身に付けながら、日本の地域を知り、地域と縁を結ぶ機会を得て参ります。グローバルプログラムと呼ばれるこの取組みを通して、途上国での活動から得られた経験が、帰国後に日本各地で大いに活かされるような好循環を生み出したいと考えております。

未曾有の事態の最中にあった昨年を経て、この一年は、依然、先を見通すことが難しい中でも、皆様と共に一歩ずつ前進した一年間となりました。改めまして、この一年、皆様からいただきました多大なご支援に心からお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。そして、2022年は事業の平常化と国内への貢献に向けた道筋をより明らかにし、更に歩みを進めて参りたいと思いますところ、何卒、引き続きのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。皆様におかれましても、平和で、幸多き、素晴らしい2022年となりますよう、そして、皆様の益々のご健勝とご活躍をこころからお祈りいたします。

敬具